

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 8 月 20 日現在

機関番号：32423

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02409

研究課題名（和文）共鳴かつ葛藤する闘争 公民権運動の相対化による1960年代の社会運動分析

研究課題名（英文）Struggles that resonate and conflict at the same time; Redefining social movements during the 1960s in relation to the Civil Rights Movement

研究代表者

岩本 裕子（IWAMOTO, HIROKO）

浦和大学・こども学部・教授

研究者番号：40279592

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,500,000円

研究成果の概要（和文）：4年間の共同研究を終えて、共著出版（彩流社から9月出版予定）作業に入っている。仮書名を『自由と解放を求める人々』とし、その副題には「現代アメリカへの見取り図」「多文化社会アメリカへの道」「人種・ジェンダー・宗教でみるアメリカ」と三案出ている。各自が論文を脱稿し、編者二人で「序章」を書き終えたところである。

三部構成で、第一部には黒人女性をテーマとした三論文、第二部にはカトリック教徒、ユダヤ教徒、同性愛アクティビズムをテーマとする三論文、加えて科研メンバーの勉強会で講師に迎えた方から公民権運動史の史学史論文を寄稿して頂いた。社会・国民に向けて我々の4年間の研究成果は活字として発表される予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2020年5月にミネソタ州のジョージ・フロイド氏が白人警察官による暴行で絶命したことで再燃したBLM運動は、日本社会でも高い関心を呼んだ。なぜあのようなことが起こるのかの回答の一端が、我々の本研究成果にはあるだろう。学術的意義に留まらず、社会的意義も提示できるはずである。黒人男性運動家や白人リベラルズ中心の運動に留まらず、ジェンダー、宗教、性的指向などの視点から、同時代に生きた人々に影響を与えてきたことが実証できた。日々社会変革を続けるアメリカ社会を見ずえながら、21世紀も20年が過ぎた現在、世界中で人種、民族、宗教などをめぐる様々な問題が続くが、諸問題を読み解く回答の糸口を提供できるだろう。

研究成果の概要（英文）：After four years of hard work, we are finally in the process of editing a co-authored book, the temporary title, People who seek Freedom and Liberation. This book is scheduled to publish in September. Its subtitle should be one of the three candidates, “A sketch of Contemporary America”, “The road to the Multicultural American Society” and “America by Race, Gender and Religion”. The manuscripts are all completed as well as the introduction by the editors. There are three divisions of the book, firstly, three articles on black women activists, secondly, on Catholic, Jewish women activists, and homosexual activists, then thirdly, a historiographic treatise on the history of the civil rights movement by the advisor of this project. We sincerely hope this book will lead people to understand the not-so-simple nature of the social movements during the Civil Rights Era.

研究分野：アメリカ史

キーワード：公民権運動 人種 ジェンダー 宗教

## 1. 研究開始当初の背景

公民権運動に関する既存の研究は、黒人をはじめとするマイノリティの活動を考察し、その歴史的な意義や成果を評価することを目的にしてきた。例えば、Meier や Zinn などインサイダーによる「叙述史」、Sitkoff、Juan Williams、Taylor Branch など歴史家による「通史」、そして草の根大衆の立場から歴史を再評価する Chafe、Garrow、Payne、上杉忍、川島正樹などによる「社会史」の研究がある。これらは公民権運動を正面から捉え、その意義を問うものだった。

近年では、国際的な「同時性」に着目して、1960年代の多様な社会運動とその「越境」が国際的文化変容にまで至ることを指摘した油井らによる研究、南部白人（片桐康宏）や白人女性（Schultz、Fosl、Murray）に焦点を当てた裏面史、同性愛運動への公民権運動の影響を論じた研究（John D' Emilio）が出版され、公民権運動をより広域的・複眼的に検討する動きもある。

確かにこれらの研究は、公民権運動の多様な展開の仕方やその反作用あるいは影響を受けて生じた運動との関係性を明らかにした。他方で、公民権運動を分析の中心に据えたため、同じ1960年代という時代に展開された「市民的な権利を求める運動」の中に特定の人種やエスニシティに帰属する人々を、必ずしも主体としない運動を周縁化してしまったと言える。

社会的「マイノリティ」としてのアイデンティティの共通性に焦点を当てて、社会運動の共通基盤を模索した研究もあるが、いかなるアイデンティティも人種あるいはセクシュアリティに一元化できるものではなく複数的で重層的であること、アイデンティティという概念がいかなる政治・経済・社会的文脈の中で定義されているのかという立ち入った分析を欠いていた。

## 2. 研究の目的

本研究は、キング牧師等の黒人指導者による組織的かつ非暴力的抵抗運動の成果によって人種差別が克服された、と描かれてきた従来の公民権運動史からの離脱を図り、他の社会運動、特に階級・宗教・ジェンダー・セクシュアリティをめぐる運動との連関の中で公民権運動を相対的に位置づけ、公民権運動史を再構築することを目的とする。

具体的には、まず、最近までその貢献が十分評価されてこなかった黒人女性に注目して、彼女たちと連携しながら、あるいは緊張関係を持ちながら展開された、さまざまな社会運動の内外における抑圧と被抑圧、対立と連携、排除と包摂の重層構造を明らかにする。それを踏まえて、1960年代の社会運動の全体像とその中で公民権運動の意味を明らかにする。

公民権運動と同時期に展開された一見無関係に見える運動の本質やその活動のどれをも周縁化せず、前後の時期にもわたる複数的かつ重層的構造を意識しながら1960年代を読み解くことが、今日残された公民権運動研究の課題となっている。本研究は、その課題に焦点をあてた挑戦的な研究である。

## 3. 研究の方法

第一段階では、研究代表者と分担者の各自が分担して①文献・史料研究、さらに必要に応じて②インタビューを行い、各社会運動を明らかにする。文献・史料研究は、アメリカ国内の大学や文書館を訪問し、第一次史料の閲覧、収集を行う。

第二段階では、各自の分担研究を持ち寄って精査し、1960年代の社会運動と公民権運動の関係を学際的に整理する。必要に応じて、国内外の専門家との意見交換や学術交流を図り、人種・階級・ジェンダーに注目した分析内容や方法を検証しつつ進める。

なお第一段階と第二段階は計画遂行上、同時進行で行うことが望ましいが、分担研究の進行度合いを管理しながら第二段階を後に持つてくることもあり得る。

上記した「研究の方法」を達成するために、与えられた4年間で、毎年複数回の研究会（勉強会）をすること、2年目と3年目に史料収集のために三人ずつ渡米することと決めた。

## 4. 研究成果

2017年5月一橋大学での日本西洋史学会の小シンポジウムに応募し、開催決定し、タイトル「黒人女性の視点から再評価する公民権運動—人種、ジェンダー、階層、宗教による差別解消と正義を求める運動との有機的関連」というシンポジウムを成功させることができた。

与えられた4年間で、毎年複数回の研究会（勉強会）をすること、2年目と3年目に史料収集のために3人ずつ渡米することは、予定通り実行できた。最初の勉強会では、「長い公民権運動」への共通理解を深める学習会を行い、4年間の研究計画の練り直しも行った。その後3年間の内、外部から3人の講師を招いて、講演して頂く機会にも恵まれた。

2019年度までの3年間は、順調に予定をこなすことができ、6人全員が渡米して研究活動ができた。年度末からコロナ禍が始まり、第5回目として3月に予定していたメンバーによる研究会

は断念した。最終年度であった 2020 年度はコロナ禍が常態となり、対面会議をあきらめてオンライン会議で話し合いを続けた。

2017 年度から 4 年間の共同研究を終えて、5 年目を迎える 2021 年度現在、共著出版作業を続けている。初年度時点で、彩流社から共著出版の確約を得ていたため、4 年間の共同研究の最終目的として、共著出版を前提に研究を進めてきた。4 年目だった 2019 年 8 月には、彩流社にて編集者と詳細な打ち合わせを終わっていた。

この夏には、研究代表者と 5 人の分担者、及び研究会の招聘講師であった川島正樹氏も加わって 7 人での共著出版が本格的に始まった。編者としては、研究代表者岩本裕子と分担者西崎緑の 2 人があたり、研究成果のまとめとして「はしがき」を執筆し終えている。その一部を以下に再録して、「研究成果」の一端とする。

2020 年 5 月、アメリカ社会での出来事が世界に影響を及ぼしたことを、われわれは目撃した。ミネソタ州ミネアポリスで、黒人男性ジョージ・フロイドが白人警察官による暴行で絶命した様子が SNS で拡散され、抗議デモは全米のみならず世界中に拡大し、日本でも行われた。いわゆるブラック・ライヴズ・マター (BLM) 運動は、元々 2012 年にフロリダ州で黒人高校生トレイボン・マーティンが白人自警団リーダーに射殺され、加害者が翌年無罪となった事件が契機で起こった。2020 年には再燃したのだった。

世界を動かし、変革の動きを見せる力が 21 世紀のアメリカ社会にあるとすれば、その原動力はどの時代まで遡ればいいのか。アメリカ社会の大きな転換点の一つは、やはり黒人の権利獲得運動、つまり公民権運動であろう。これは、1954 年に合衆国最高裁が出した、公立学校における黒人と白人の別学を定めた州法を違憲とする「ブラウン判決」以後、アメリカ南部で展開された運動として日本人にも知られている。1950 年代半ばから 10 年余り続いたこの運動は、アメリカ社会を大きく変え、黒人の権利獲得運動に留まらない、学生運動、女性運動、先住民運動など多くの社会運動へと発展した。

(中略)

本書執筆者 7 人の研究は、時代的にも、研究対象においても、まさにこの「長い公民権運動」に位置づけられる。自由や平等、解放を求めるアメリカ黒人の運動は近年時代的にもテーマ的にも多様な視点から再検討が進んでいて、女性活動家が運動に果たした役割や運動のなかのジェンダーをめぐる緊張対立、狭義の公民権／市民権にとどまらない多様な争点、労働運動や学生運動やユダヤ系権利運動やゲイ・リベレーションとの複雑な連携関係、冷戦下の国際情勢やアフリカン・ディアスポラのなかのアメリカ黒人の闘争など、さまざまな議論が提起されてきた。

本書では、これらの研究動向を踏まえて、黒人男性運動家や白人リベラルズ中心の運動に留まらず、ジェンダー、宗教、性的指向などの視点から、同時代に生きた人々に影響を与えてきたことを実証していく。

(中略)

日々社会変革を続けているアメリカ社会を見すえながら、歴史研究者の模索は続くが、われわれから読者に問いかけることを止められない。21 世紀も 20 年が過ぎた現在、世界中で人種、民族、宗教などをめぐる様々な問題が続いているが、諸問題を読み解くための回答の糸口を、本書が提示できることに期待している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Sato Chitose	4. 巻 30
2. 論文標題 Gendering 'Hunger in the midst of commodity surplus': the food stamp plan and American women in the great depression	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Women's History Review	6. 最初と最後の頁 287 ~ 301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09612025.2020.1757871	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千登勢	4. 巻 57
2. 論文標題 書評：ヴィクトリア・ヴァントック著、浜本隆三、藤原崇訳 『ジェット・セックス スチュワーデスの歴史とアメリカ的「女性らしさ」の形成』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西洋史学論集	6. 最初と最後の頁 67-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北美幸	4. 巻 8月28日号
2. 論文標題 書評：渡辺靖著 『白人ナショナリズム アメリカを揺るがす「文化的反動」』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北美幸	4. 巻 書籍内論文
2. 論文標題 「ホロコーストと米国の公民権運動をつなぐもの 歴史の当事者との対話による戦争・ヘイト・差別問題の見つめ直し」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 翻訳書『平和の下で』	6. 最初と最後の頁 293-333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋和代	4. 巻 第48巻13号
2. 論文標題 「刑罰国家と『福祉』の解体 『投資 脱投資』が問うもの」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想』（2020年10月臨時増刊号）	6. 最初と最後の頁 124-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋和代	4. 巻 21号
2. 論文標題 「ブラック・ライヴズ・マター運動と岐路に立つアメリカ社会 1992年ロスアンジェルス蜂起から考える」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アメリカ太平洋研究』	6. 最初と最後の頁 7-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋和代	4. 巻 9月1日号
2. 論文標題 「ブラック・ライヴズ・マター運動と日本における重層的差別」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東京大学新聞』	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋和代（聞き手：国際部記者 佐藤真莉子）	4. 巻 ウェブ記事
2. 論文標題 「アメリカの選択を読み解く 米社会」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NHK アメリカ大統領選挙2020、ウェブ記事	6. 最初と最後の頁 ウェブ記事
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼子歩	4. 巻 第48巻13号
2. 論文標題 「アメリカの警察暴力と人種・階級・男性性の矛盾」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想』（2020年10月臨時増刊号）	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼子歩	4. 巻 第94号
2. 論文標題 「犬笛政治の果てに トランプ大統領の四年間を歴史的に考える」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 185-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼子歩	4. 巻 29巻5号
2. 論文標題 「米国の「負の政治文化」は一朝一夕には解消されない トランプ以前の長い歴史の中で蓄積し続けたもの」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『金曜日』	6. 最初と最後の頁 14-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本裕子	4. 巻 61号
2. 論文標題 外国史学習の意味と意義：子どもと女性の視点から世界と日本を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 浦和論叢	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyuki Kita	4. 巻 vol.22
2. 論文標題 A Foot Soldier in the Civil Rights Movement: Lynn Goldsmith with SCLC - SCOPE, Summer 1965	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Southern Jewish History,	6. 最初と最後の頁 151-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼子歩	4. 巻 43
2. 論文標題 インターセクショナルリティの時代? 「女性のワシントン大行進」にみるジェンダーと人種	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アメリカ史研究	6. 最初と最後の頁 130-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本裕子	4. 巻 夏号
2. 論文標題 アメリカ映画の暴力性: 時代を映す鏡としてのハリウッド映画	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季論21	6. 最初と最後の頁 170-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本裕子	4. 巻 第14号
2. 論文標題 アメリカ黒人女性の語り継ぎを知る 「過去の克服」は達成できたか?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際基督教大学ジェンダー研究センタージャーナル 『ジェンダー&セクシュアリティ』	6. 最初と最後の頁 9-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西崎緑	4. 巻 第2号
2. 論文標題 アメリカ公的福祉協会が連邦政府の公的扶助に果たした役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 島根大学人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋和代	4. 巻 1129号
2. 論文標題 生存権・保証所得・ブラックフェミニズム アメリカの福祉権運動と 一九六八	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 105-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼子歩	4. 巻 第908号
2. 論文標題 トランプの時代の新しい女性運動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 176-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼子歩	4. 巻 第917号
2. 論文標題 アメリカ政治を変える黒人女性たち	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 98-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩本裕子	4. 巻 第58号
2. 論文標題 アメリカ黒人女性教育者の遺産 小学校の名称となったナニー・ヘレン・パロウズを中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 浦和論叢	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千登勢	4. 巻 第39号
2. 論文標題 アメリカにおけるフードスタンプ改革	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 兼子歩	4. 巻 第527号
2. 論文標題 アメリカ南北戦争の記憶の社会経済史的研究: 南北戦争後の半世紀をめぐる議論を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 明治大学教養論集	6. 最初と最後の頁 89-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土屋 和代	4. 巻 104, no.2
2. 論文標題 "Book Review: From the War on Poverty to the War on Crime: The Making of Mass Incarceration in America. By Elizabeth Hinton."	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of American History	6. 最初と最後の頁 569-570
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 北美幸
2. 発表標題 ホロコースト生還者の公民権運動への参加 マリオン・イングラムの場合
3. 学会等名 北米エスニシティ研究会 オンライン（Zoom利用）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 土屋和代
2. 発表標題 「ブラック・ライブズ・マター運動と岐路に立つアメリカ社会 1992年ロスアンジェルス蜂起から考える」
3. 学会等名 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター（CPAS）公開シンポジウム「分断のアメリカを展望する」オンライン開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西崎緑
2. 発表標題 アメリカ南部白人女性による慈善と反リンチ活動 20世紀の活動家Dorothy Rogers Tilly を中心に
3. 学会等名 日本社会福祉学会第67回秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chitose Sato
2. 発表標題 “Margaret “Peggy” Roach and Her Struggle for Racial Equality: Catholic Action and the Contract Buyers League in Chicago,”
3. 学会等名 Annual Meeting, American Catholic Historical Association, New York, (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Miyuki Kita
2. 発表標題 “ Activism at Home: Queens College Students and the Civil Rights Movement, ”
3. 学会等名 The Third Annual Conference on American Political History, Lebanon Valley College Center for Political History, Annville, PA ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北美幸
2. 発表標題 アメリカ・ユダヤ人の公民権運動への参加 謳われざる小さな活動の3つの事例
3. 学会等名 関西アメリカ史研究会第257回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroko Iwamoto
2. 発表標題 Chair of Session D, “ Women and Community ”
3. 学会等名 The Japanese Association for American Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西崎緑
2. 発表標題 冷戦期のアメリカにおけるソーシャルワーク
3. 学会等名 韓国社会福祉歴史学会第2回秋季学術大会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西崎緑
2. 発表標題 貧困・差別の構造からアメリカ社会を読み解く～黒人女性の闘いの歴史を中心に
3. 学会等名 第21回しまね女性研究者ご縁ネットイブニングミーティング（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤千登勢
2. 発表標題 Federal Food Assistance Programs and Women on Relief
3. 学会等名 International Federation for Research in Women's History, 2018 Conference, Vancouver, Canada. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北美幸
2. 発表標題 The Power of Immigrants to Make America Great: With Special Reference to Jewish Commitment to the Civil Rights Movement
3. 学会等名 Multinational Institute of American Studies 2019 Conference, New York University Florence, Italy, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土屋和代
2. 発表標題 誰の「正義」か 1992年ロスアンジェルス蜂起をめぐる表象の政治
3. 学会等名 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻主催第26回公開シンポジウム「移民と人権」.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土屋和代
2. 発表標題 アメリカの福祉権運動と 1968 保証所得をめぐる相克
3. 学会等名 国際シンポジウム「グローバルな記憶空間としての東アジアVer.2 メモリーレジーム/メモリーアクティビズム」. Panel 2「1968年の記憶と現代」(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兼子歩
2. 発表標題 トランプの時代におけるジェンダーと人種の交錯
3. 学会等名 日本アメリカ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兼子歩
2. 発表標題 ひとりのアメリカ研究者からみた『男らしさの歴史』
3. 学会等名 ジェンダー史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 代表者 岩本 裕子
2. 発表標題 小シンポジウム3：黒人女性の視点から再評価する公民権運動 人種、ジェンダー、階層、宗教による差別解消と正義を求める運動との有機的関連
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西崎 緑
2. 発表標題 黒人女性コミュニティ組織や学生組織の公民権運動への係わり
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤 千登勢
2. 発表標題 カトリックによる人種平等を求める闘い マーガレット・"ペギー"・ローチを事例として
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北 美幸
2. 発表標題 公民権運動に参加したコダヤ人たちの係わり
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土屋 和代
2. 発表標題 生存権を問う 公民権運動と福祉権運動
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 兼子 歩
2. 発表標題 上記小シンポジウムでのコメンテーターとしてのコメント
3. 学会等名 日本西洋史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩本裕子
2. 発表標題 公開シンポジウムテーマ：「過去の克服」とジェンダー・セクシュアリティ研究 アメリカ黒人女性の語り継ぎを知る 「過去の克服」は達成できたか
3. 学会等名 国際基督教大学ジェンダー研究センター
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北 美幸
2. 発表標題 "Tikkun Olam" across the Border: Mississippi Freedom Summer through the Eyes of a Queens College Jewish Student
3. 学会等名 42nd Annual Southern Jewish Historical Society Conference, Cincinnati Campus of Hebrew Union College ; Jewish Institute of Religion, Cincinnati, OH,
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北 美幸
2. 発表標題 "Conveying Justice to the South: American Jews in the Civil Rights Movement"
3. 学会等名 British Association for Jewish Studies Annual Conference 2017, University of Edinburgh, Edinburgh, UK,
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 北 美幸
2. 発表標題 『名もなき』運動員の日記から読む米国公民権運動
3. 学会等名 人権思想研究会、九州大学西新プラザ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 土屋 和代
2. 発表標題 誰のための「福祉」か - ニクソン政権下の「家族支援計画」と人種、階級、ジェンダー
3. 学会等名 アメリカ学会第51回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土屋 和代
2. 発表標題 The JAAS Tokyo Pro-seminar (アメリカ学会東京プロセミナー) 司会
3. 学会等名 アメリカ学会.
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土屋 和代
2. 発表標題 CPAS創設50周年記念シンポジウム コメンテーターとしてのコメント
3. 学会等名 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター、東京大学駒場キャンパス
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 岩本裕子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 メタ・ブレーン	5. 総ページ数 239
3. 書名 今、問い続けるということ：多文化共生への歴史理解	

1. 著者名 西崎 緑	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 292
3. 書名 ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたのか	

1. 著者名 佐藤千登勢	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 271
3. 書名 フランクリン・ローズヴェルトー大恐慌と大戦に挑んだ指導者	

1. 著者名 マリオン・イングラム、村岡 美奈、北 美幸、寺田 由美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 戦渦の中で	

1. 著者名 マリオン・イングラム、北 美幸、袴田 真理子、寺田 由美、村岡 美奈	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 358
3. 書名 平和の下で	

1. 著者名 土屋和代「誰のためのフェミニズムか 福祉権活動家ジョニー・ティルモンと歴史家シャーナ・バーガー・グラック」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 228 ( 担当章167-179 )
3. 書名 樋口映美編『歴史のなかの人びと』	

1. 著者名 土屋和代「格差社会アメリカ 『多人種都市』ロスアンジェルスから」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272 ( 担当章65-94 )
3. 書名 矢口祐人編『東大塾 現代アメリカ講義』	

1. 著者名 兼子歩「価値観の分断線がゆらぐとき ニューヨークのデパート女性従業員と女性覆面調査員（一九一三年）」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 228 ( 担当章153-165 )
3. 書名 樋口映美編『歴史のなかの人びと』	

1. 著者名 兼子歩「新保守主義の内政と外交 ロナルド・W・レーガン」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 362 (担当章182-212)
3. 書名 青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編著『現代アメリカ政治外交史 「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで』	

1. 著者名 兼子歩「オリンピックとジェンダー」	4. 発行年 2020年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 274 (担当章213-232)
3. 書名 高峰修編著『夢と欲望のオリンピック その多様な姿』	

1. 著者名 田辺 明生、竹沢 泰子、成田 龍一編 土屋和代	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 428 担当箇所255-98
3. 書名 環太平洋地域の移動と人種 「1992年ロスアンジェルス蜂起をめぐる表象の政治 『薄明かり ロスアンジェルス、1992』と記憶の重層性」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西崎 緑  (Nishizaki Midori)  (00325432)	島根大学・学術研究院人間科学系・教授   (15201)	
研究分担者	佐藤 千登勢  (Satoh Chitose)  (70309863)	筑波大学・人文社会系・教授   (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	北 美幸 (Kita Miyuki)  (80347674)	北九州市立大学・外国語学部・教授  (27101)	
研究分担者	土屋 和代 (Tsuchiya Kazuyo)  (60555621)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授  (12601)	
研究分担者	兼子 歩 (Kaneko Ayumu)  (80464692)	明治大学・政治経済学部・専任講師  (32682)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関